

開催地名：愛媛県今治市	
開催日時	令和3年11月26日（金） 13:25～15:15
開催場所	今治市立立花小学校 屋内運動場
語り部	糸日谷美奈子 （千葉県千葉市）
参加者	第5学年児童 担当教員 約90人
開催経緯	・ 文献やインターネットなどで学習を重ねているが、災害をどこか遠くのことと考えてしまい、自分事として捉えにくい実態がある。 ・ 防災に対する関心度に差があり、家庭における防災グッズや備蓄品、約束事など具体的な実態が大きく異なる中で、どのような啓発ができるか。
内容	(1)「釜石の奇跡」は奇跡ではない。 釜石市は岩手県の中では南方に位置する沿岸部の町。10年前の時点で大きな地震が起こる確率は70パーセントと言われていた。東日本大震災では釜石市内で888人の方が亡くなり、158人が行方不明になった。しかし、学校にいた小中学生は全員助かった。これは「釜石の奇跡」として報道された。奇跡的にみんな助かったというテレビの放送を聞いて、本人たちは「奇跡じゃない」と語っていた。私たちは、「昭和の津波はここまで来た。明治の津波はここまで来た。」という石碑が残されており、みんなで見学に出かけて明治と昭和それぞれの津波に関する話を聞き、防災について学んでいた。過去の経験から、釜石市は大きな地震の約30分後に13～14メートルの津波が来るとわかっていた。学校の3階の天井まで達する高さなので、「学校に避難したら、助からない。学校に逃げちゃダメ。高いところに逃げよう。」という認識ができており、避難訓練では先生が先頭に立って、みんな並んで走って逃げるという訓練をしていた。 (2) 東日本大震災時の対応 2011年3月11日14時45分。教師をしていた釜石東中学校では、帰りの会がちょうど終わる時間で、みんなバラバラの場所にいた。そんな中で地震が発生。携帯のアラームが一斉に鳴りだし、私は近くにいた生徒と一緒に駐車場まで避難をした。到着すると、今までに感じたことのないような大きな揺れが到達。釜石市は震度6弱の揺れだったが、それでも駐車場に置いてあったワゴン車が跳ね、地面が波打つように揺れた。揺れが少し収まってから、地域の人と声を掛け合いながらさらに高台を目指して避難した。ここまで来れば安心だと思って時計を見たのが発生から30分後の3時15分頃。ほっとした途端、海の方から大きい音が聞こえた。木や建物で

	波が見えないが、砂煙のようなものがだんだん近づいてくるのが見えた。恐怖で体が動かなかった。「逃げろ！津波が！死ぬぞ！」という大きな叫び声でバラバラになって避難した。黒い波が自分たちに近づいてくるのを後方で確認しながら、「とにかく走れ」と声を掛け合った。自分の命を守ることしかできなかった。私が逃げた山の上からは、自分たちの街がどんどん波にのまれていくのを、ただ見ることしかできなかった。 (3) 東日本大震災から得た教訓 2009 年から防災の学習をし、学んだことは地域のみなさんにも展開していた。例えば「てんでんこレンジャー」というヒーローが「高いところを目指して逃げなさい」という劇にして、校内や地域で発表した。また「避難しました。」という安否札を作成し、近所に 1000 枚配布した。当時は「泥棒被害を助長する」という批判もあったが、東日本大震災の震災で実際に活用され、人の命を救ったことは確か。楽しく学んで、みんなで助かればいい。助けられる人から助ける人へ、そして学んだことを地域に伝える。この 3 つが合言葉。みんなが学ぶことで後悔しない未来は絶対につくれる。ぜひたくさんのことを学び共有して、後悔しない未来を一緒につくっていきましょう。
開催地より	「釜石の奇跡」は事前の学習と訓練の賜物だったことが理解できた。いま一度ハザードマップや訓練内容を見直すきっかけにしたい。また、学習するだけでなく、地域に共有し連携する姿勢が大変参考になった。助ける人になれるよう、本日の学びを実践につなげていきたい。